

1995年3月

「再資源化開発事業等表彰」 通産大臣賞を受賞

1990年代に入ると、リコーは環境経営への取り組みを本格化させます。複写機などの重量の約20%はプラスチック部品ですが、従来はほとんどが分解・分別されることなく製品のまま破碎、廃棄されていました。こうした無駄をなくすために、リコーはリサイクル可能な部品をできるだけ使う設計に取り組み、1993年にリサイクル設計方針および製品評価システムを設定。これに基づき1994年に初のリサイクル対応設計複写機を発売しました。

こうした取り組みが「リコー環境製品アセスメントとリサイクル対応設計推進事業」として認められ、1995年、財団法人クリーンジャパンセンターが主催する「再資源化開発事業等表彰」において最高賞である通商産業大臣賞を受賞。リサイクル対応設計は、リコーの環境経営の伸展を支える基盤となりました。



分解・分別を容易にした複写機



リサイクル対応設計複写機 Spirio 2700。分解にかかる時間を短縮するためのネジ数の削減、プラスチック材料の素材統一、剥がす手間のかからないデカル（シール）の開発など、リサイクルを容易にするための設計が採用されました。



省資源・リサイクル化をめざし、回収した複写機の分解・分別作業を行うためのリサイクルセンターを関東と九州に設置